

2019年（令和元年） 6月7日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

5/23~5/29のNYMEX・WTIは、57.91~59.14ドルの範囲で推移した。

5月30日は、中国高官から米国非難の発言があるなど、米中貿易摩擦の激化・長期化懸念が深まる中、米国株とともに、続落した。一日遅れのEIA週報が、先週末の米国原油在庫を前週比30万バレル減と市場予想(90万バレル減)を下回る取り崩しとなったこと、また、前週の原油生産量を1230万b/dと4週前の史上最高値に並んだことも、下落要因となった。7月限終値は前日比2.22ドル安の56.59ドル。

週末31日は、トランプ大統領が移民政策に関連してメキシコに制裁関税をかけると発表したことから、メキシコの米国産石油製品輸入の減少懸念、中国の米国への対抗関税賦課の発表による世界経済の先行き懸念で、3日続落、2月12日以来の安値を記録した。なお、ペーカー・ヒューズ社によると、米国稼働リグは800基と前週比3基増と4週ぶりの増加。7月限終値は前日比3.09ドル安の53.50ドル。

週明け3日は、先週末の反動で買戻しの動きが活発化、また、ファリハ・エネルギー相から本年下期もOPECプラスが協調して供給過剰を回避すると発言があったものの、米国とメキシコの関係悪化の懸念から続落した。7月限終値は前週末比0.25ドル安の53.25ドル。

4日は、朝方売り先行で始まったが、パウエル米FRB議長の米金利引き下げを示唆する発言やこれによる米国株価の大幅回復もあって、買いが優勢となり4営業日ぶりに反発した。7月限終値は前日比0.23ドル高の53.48ドル。

5日は、EIA米国在庫週報は、原油・ガソリン・中間留分とも

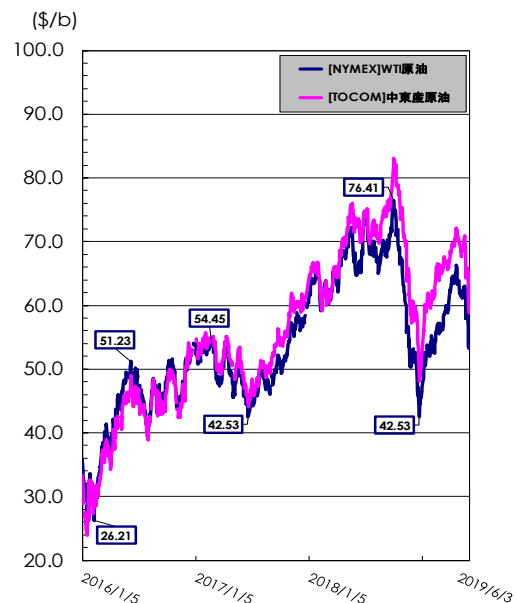
予想を上回る積み増しが報告され、ドル高による原油割高感もあって、大幅反落した。7月限の終値は前日比1.80ドル安の51.68ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(7月渡し)は5月23日~29日の間66.90~69.70ドルの範囲で推移した。5月30日67.70ドル、31日64.00ドル、6月3日60.30ドル、4日59.70ドル、5日60.30ドルで推移した。

為替は5月23日~29日の間109.28~110.28円の範囲で推移した。5月30日109.62円、31日109.36円、6月3日108.34円、4日107.92円、5日108.13円で推移した。

そのような中で、6月3日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油も同0.2円の値下がり、灯油は同2円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリンと軽油は3週連続の値下がり、灯油は15週ぶりの値下がりだった。この週(6月第1週)の原油コストは大きく値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社3.0円の引き下げとなった。

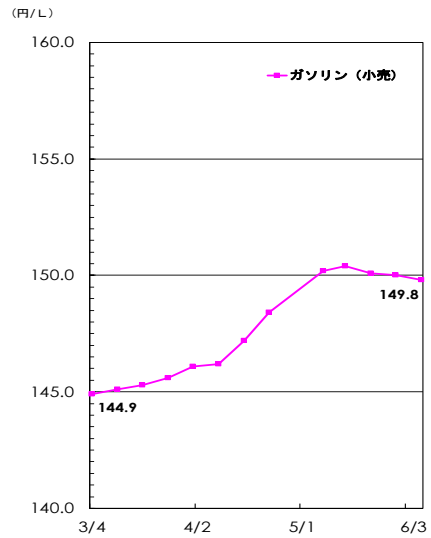
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/26 ~ 6/1	2,876 ▲49	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	73.4 ▲1.2	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	6/1	13,737 ▲94	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/3	58.80 ▼-5.65	▼-14.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/3	53.25 ▼-5.89	▼-11.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月上旬	72.13 ▲2.87	▲1.37
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	50,785 ▲2,189	▲2,224
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.92 ▼-0.38	▼-2.82
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/3	109.34 ▲1.16	▲1.32



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/26 ~ 6/1	861 ▼ -23	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	866 ▲ 13	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -21	▼ -	
	在庫	6/1	1,574 ▼ -5	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/28 ~ 6/3	63.0 ▼ -0.8	▼ -5.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/28 ~ 6/3	56.2 ▼ -3.5	▼ -7.8
		(TOCOM/中部)	6/3	54.2 ▼ -4.6	▼ -10.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/3	149.8 ▼ -0.2	▼ -2.3	

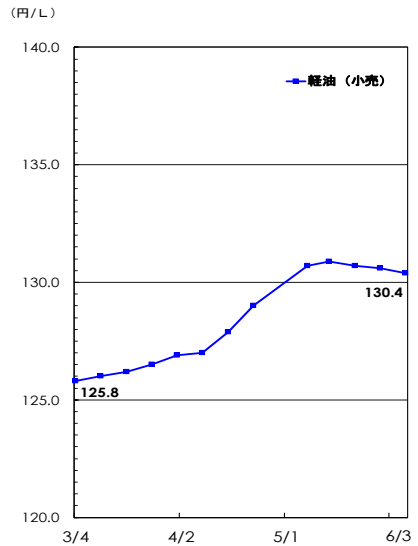
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

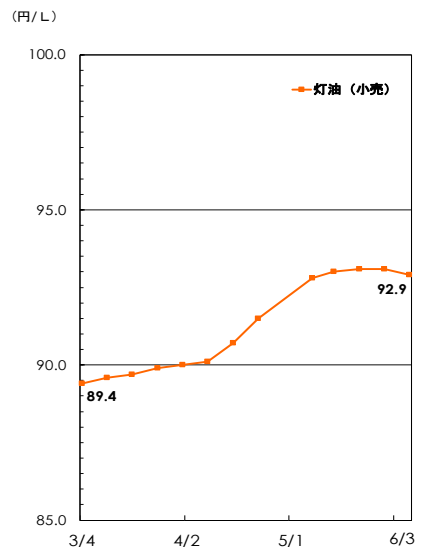
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/26 ~ 6/1	846 ▲ 67	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	573 ▼ -76	▼ -	
	輸出	"	420 ▲ 261	▲ -	
	在庫	6/1	1,305 ▼ -146	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/28 ~ 6/3	65.8 ▼ -0.5	▼ -3.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/28 ~ 6/3	65.9 ▼ -1.3	▼ -2.0
		(TOCOM/中部)	6/3	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/3	130.4 ▼ -0.2	➡ 0.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/26 ~ 6/1	161 ▲ 21	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	53 ▼ -57	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	6/1	1,439 ▲ 108	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/28 ~ 6/3	65.2 ▼ -0.9	▼ -3.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/28 ~ 6/3	58.6 ▼ -3.5	▼ -7.3
		(TOCOM/中部)	6/3	58.0 ▼ -4.0	▼ -8.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/3	92.9 ▼ -0.2	▲ 0.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月5日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比680万バレル増(市場予想:80万バレル減)、ガソリンが同320万バレル増(同:60万バレル増)、中間留分が同450万バレル増(同:50万バレル増)といずれも予想を上回る積み増しが報告されたこと、先日来の米中貿易摩擦の激化等世界経済の先行き不安やドル高の進行による原油先物の割高感もあって、大幅反落し、1月14日以来の約5か月ぶりの安値を記録した。7月限の終値は前日比1.80ドル安の51.68ドル、8月限の終値は前日比1.80ドル安の51.83ドル。

EIAによると、6月3日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.5セント値下がり1ガロン2.807ドル(81.0円/ℓ)、ディーゼルは同1.5セント値下がり3.136ドル(90.5円/ℓ)となった。ガソリンは4週連続の値下がり、ディーゼルは2週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年5月26日～6月1日に休止したトッパー能力は72.7万バレル/日で、前週に対して0.3万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は287.6万klと、前週に比べ4.9万kl増加。前年に対しては11.2万klの減少。トッパー稼働率は73.4%と前週に対して1.2ポイントの増加、前年に対しては2.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリンが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.6%減、ジェット/21.8%増、灯油/15.1%増、軽油/8.5%増、A重油/23.8%増、C重油/35.5%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl)。軽油の輸出は42.0万kl(前週比26.1万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は86.6万kl(対前週1.6%増)と2週連続で増加となり、22週連続で100万klを下回った。ジェット6.5万kl(対前週49.5%減)、灯油5.3万kl(対前週51.6%減)、軽油57.3万

kl(対前週11.8%減)、A重油15.6万kl(対前週6.6%減)、C重油17.4万kl(対前週33.5%増)。

(単位:千kl)

	今週 (5/26 ~ 6/1)	前週 (5/19 ~ 5/25)	前週比	
ガソリン	866	853	▲ 13	(2%)
ジェット燃料	65	129	▼ -64	(-50%)
灯油	53	110	▼ -57	(-52%)
軽油	573	649	▼ -76	(-12%)
A重油	156	167	▼ -11	(-7%)
C重油	174	130	▲ 44	(34%)
合計	1,887	2,038	▼ -151	(-7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月1日時点の在庫は、ジェット、灯油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては全ての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは157.4万kl、前週差0.5万kl減。前年に対しては28.0万kl少ない。

灯油は143.9万kl、前週差10.8万kl増。前年に対しては7.9万kl少ない。

軽油は130.5万kl、前週差14.6万kl減。前年に対しては16.5万kl少ない。

A重油は76.2万kl、前週差0.5万kl減。前年に対しては1.4万kl少ない。

C重油は194.4万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては16.1万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (6/1)	前週 (5/25)	前週比	
ガソリン	1,574	1,579	▼ -5	(-0%)
ジェット燃料	907	864	▲ 43	(5%)
灯油	1,439	1,331	▲ 108	(8%)
軽油	1,305	1,451	▼ -146	(-10%)
A重油	762	767	▼ -5	(-1%)
C重油	1,944	1,927	▲ 17	(1%)
合計	7,931	7,919	▲ 12	(0.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月28日～6月3日の原油価格は、前週比で大きく値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは大きく値下がりがしたものと見られる。

陸上スポット価格は、5月28日～6月3日の間、ガソリン115～117円台で大きく値下がり、軽油65～66円台で値下がり後ほぼ横ばい、灯油64～65円台で値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン112～119円台で値上がり後大きく値下がり、軽油66～68円台で大きく値

下がり、灯油57～60円台で大きく値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン106～111円台で値上がり後激しく値下がり、軽油64～66円台で大きく値下がり、灯油55～60円台で激しく値下がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社3.0円の引き下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

5月28日～6月3日の製品スポット市況は、5月21日～27日平均と比べ、全油種・全取引で値下がりがした。

6月第2週(6/6～6/12)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5/28～6/3千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.8円の値下がり、灯油は0.9円の値下がり、軽油は0.5円の値下がりがだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは2.3円の値下がり、灯油は5.1円の値下がり、軽油は1.3円の値下がりがだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが3.5円の値下がり、灯油は3.5円の値下がり、軽油は1.3円の値下がりがだった。

6月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社3.0円の引き下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (5/28 ~ 6/3)	前週 (5/21 ~ 5/27)	前週比
	レギュラー	63.0	63.8
灯油	65.2	66.1	▼ -0.9
軽油	65.8	66.3	▼ -0.5

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (5/28 ~ 6/3)	前週 (5/21 ~ 5/27)	前週比
	レギュラー	56.2	59.7
灯油	58.6	62.1	▼ -3.5
軽油	65.9	67.2	▼ -1.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/28～6/3実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.8	▼ -3.5	▼ -2.2
灯油	▼ -0.9	▼ -3.5	▼ -2.2
軽油	▼ -0.5	▼ -1.3	▼ -0.9
A重油	▼ -0.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月3日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の149円、軽油も同0.2円安の130.4円、灯油は18%ベースで同2円安の1,673円(1%ベースでは同0.2円安の92.9円)だった。ガソリンと軽油は3週連続の値下がり、灯油は15週ぶりの値下がりがだった。都道府県別には、値上がりが10府県、横ばいが8県、値下がりが29都道府県だった。全国最安値は神奈川県・宮城県の145.4円(前週比各1.7円安・1.3円安)、最高値は長崎県の160.7円(同0.3円安)であった。最も値上がりしたのは1.2円高の高知県(155.2円)、横ばいは鹿児島県等8県、最も値下がりがしたのは1.7円安の神奈川県(145.4円)だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の引き下げとなった。

今週は、原油価格は大きく値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは大きく値下がりがした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社3.0円の引き下げとなった。次週(6月10日)のガソリン・灯油の小売価格は値下がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (6/3)	前週 (5/27)	前週比	直近高値
レギュラー	149.8	150.0	▼ -0.2	08/8/4 185.1
灯油	92.9	93.1	▼ -0.2	08/8/11 132.1
軽油	130.4	130.6	▼ -0.2	08/8/4 167.4

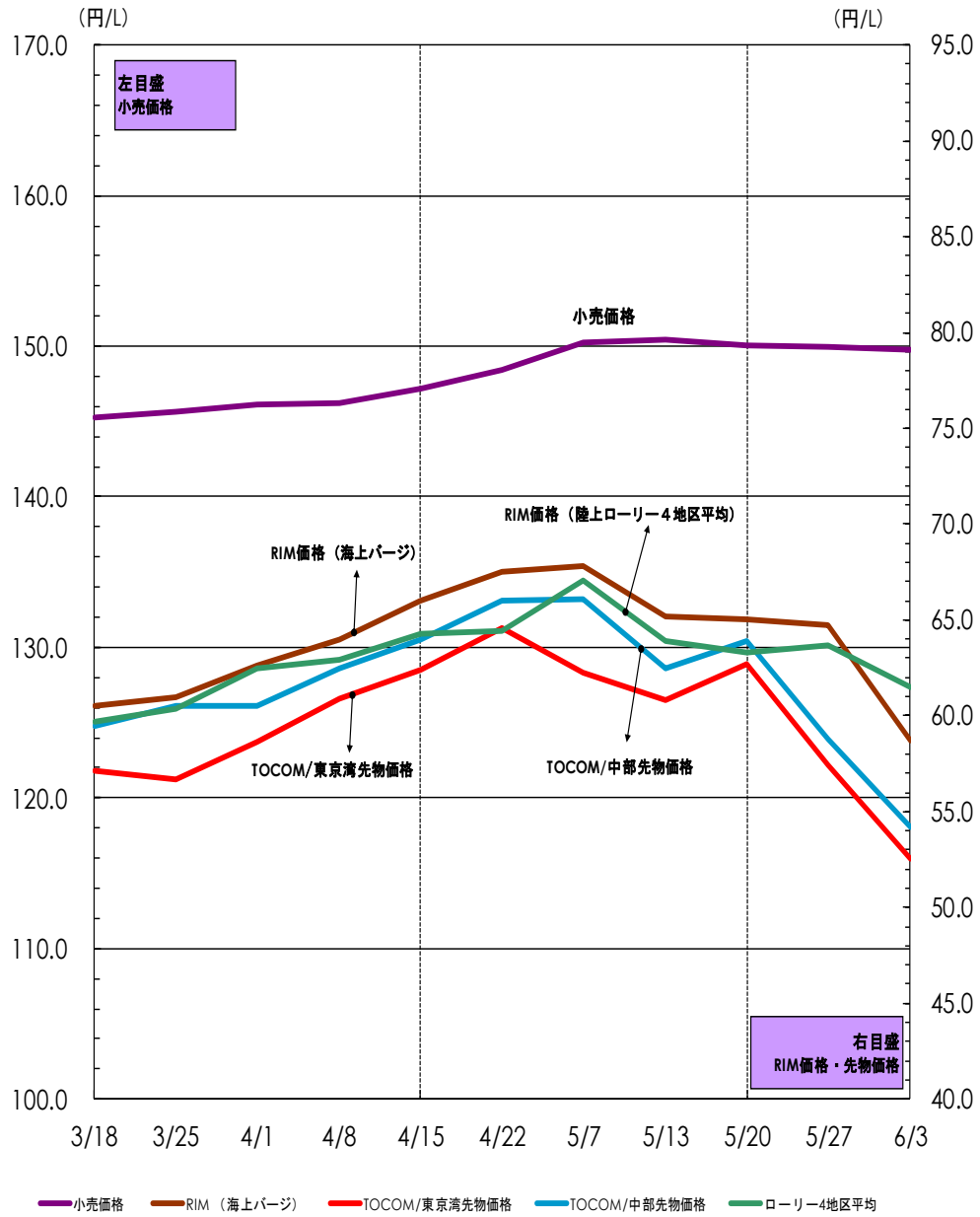
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/3/18 ~ 2019/6/3)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第10号)の公表は、6/14(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。